

区制50周年記念

南区芸術祭 2022

「南区=アートのまち」プロジェクト

実施報告書

MINNA MIYUKI MINNAKU

（ウ）ミンナミニイクミナミナク



《minamina ku》 作・結城幸司 木版画 2022年

南区をアートのまちに

メインビジュアルとなった木版画と、「ミンナミニイク ミナミナク」ロゴの前にあるシンボルは南区在住の版画家でアイヌアートプロジェクト代表の結城幸司さんが芸術祭のために制作した。チラシ、四つ折りパンフ、ポスター、うちわ等に使用された。「ミナミナク」とはアイヌ語で「笑顔の私」を意味し、同じく結城さんの発案である。「ミンナミニイク ミナミナク」のロゴタイプの制作は本芸術祭で石山緑地会場のディレクターを務めた吉村卓也さん。



南区長 ご挨拶



おくむら としふみ
奥村 俊文

「アートのまち」南区では、区制50周年を記念し「南区芸術祭」を開催、節目の年を区民の皆様と共に祝いいたしました。ディレクターやアーティスト、若者ボランティアや協賛企業など、様々な形でご尽力いただいた方々に心より感謝申し上げます。多くの方々がこの芸術祭を通じ南区の魅力や可能性について真剣に考え行動してくれたことは、南区の未来に大きな希望を感じさせるものでした。これからも南区ではアートを様々な時代と世代をつなぐ架け橋として、明るく活気あるまちづくりに取り組んでまいります。



エドウィン・ダン記念館テラスでのオープニングセレモニー

総合ディレクター ご挨拶



くにまつ あすか
國松 明日香

今から4万年前支笏カルデラを形成した火山の大規模な噴火による火碎流が、今の札幌市南区石山周辺まで流れ着き冷えて固まり札幌軟石が形成された。その軟石を切り出していた跡地を公園化した「石山緑地」で、「南区芸術祭2022—ミンナミニイク ミナミナク」のフィナーレが行われた。様々な楽器にボーカルも加わり、その音楽に添うように男性ダンサーがラベルのボレロを踊った。篝火とスウェーデントーチが灯され、ダンサーに当たる強い照明によってもたらされる長く伸びた影が切り出された石壁に映し出された。時が先史時代まで巻き戻されたかと思うほどの幻想的な時間が過ぎて「芸術祭」は23日間の幕を閉じた。

会期中に考えた私のささやかな想を述べてみたい。真駒内駅周辺会場で開催された展覧会に参加いただいたアーティストは主に40歳代で私とは親子ほどの年齢の差がある。出品された作品の大半が現代文明の危機を予知するかのように、自然と動物と人間の調和がとれていた時代に時を巻き戻したかのような世界観が通奏低音のように響いていた。豊かな自然環境が今も残る南区の芸術祭に相応しい作品群となったことを嬉しく思う。これらが前述した石山緑地のネガティヴ・マウンドで行われたフィナーレのボレロへつながり、作品や音楽に触れた人たちが笑顔になって日常に戻ってくれたことを願う。また共催企画や連携企画、クラフトマーケット、野菜販売、キッチンカーなどの賑わいが芸術祭に祝祭的な雰囲気をもたらしてくれた。参加頂いた皆様に心より感謝を申し述べたい。

区制50周年を記念しての芸術祭であったが故、それ以前そしてそれ以後といった時間の持つ意味と人間の営みについて強く深く考えさせられた。この度の芸術祭はほんの小さな風を起こしたに過ぎないかも知れない。しかしこの南区に住み続けるアーティストたちがいる限り、この後必ずや少しづつ大きな風にしてくれるに違いない。

真駒内会場 ディレクター ご挨拶



ほそかわ きよえ
細川 清映

私にとって南区は、以前住んでいたこともありとても思い入れ深いエリアです。南区芸術祭のアートディレクターとして芸術祭に携われたことを大変嬉しく思います。

南区らしい芸術祭とはなんだろう、と自分なりに南区の歴史や発展の経緯などを落とし込み「自然・SDGs・日常の中の非日常」をキーワードに國松明日香さん、吉村卓也さんはじめ皆さんのお力を借りし真駒内会場を作り上げました。プリミティブな作品を中心に会場との関連性、小規模ながらも奥深い見応えのある会場になったと思います。ご協力頂いたアーティストの皆さん、縁の下の力持ちの南区役所の皆さん、そしてその他関係者の皆さんに感謝申し上げます。

石山緑地会場 ディレクター ご挨拶



よしむら たくや
吉村 卓也

南区制50周年の年は、私が札幌に来て26周年の年だった。引っ越して初めて住んだのが南区。以来、3回引っ越ししたがずっと南区だった。関東のとある県出身の私は、その環境の豊かさに感動し、その思いは今も続いている。うれしかったのは、近くに芸術が身近だったことだ。この土地の何かが、創作活動をする人たちを引きつけるのだろう、と思った。そこで小さいながらも芸術祭ができ、関わらせてもらったのは幸せなことだった。Down to Earthな芸術祭だったと思う。この言葉は、地に足のついた、堅実な、親しみやすい、というような意味がある。芸術がこれからも地元に根差し、気軽に接することができる日常のものになってくれればと願う。

新聞社の記者、大学教授(東海大学)を経て、現在は南区を拠点に南区の潜在的魅力を発信する様々な活動を行い地域に人脈も多い。2018年にはぼすとかん再生プロジェクト代表として、クラウドファンディングを利用した旧石山郵便局(ぼすとかん)のギャラリー&カフェ化に尽力。編集者、フォトグラファー、ビデオグラファー、ライター、ドキュメンタリー映像作品も制作。

「南区=アートのまち」プロジェクトについて

南区には札幌芸術の森や石山緑地など多くの芸術関連施設があり、また、その雄大な自然の魅力に惹かれて様々なジャンルのアーティストが区内にアトリエや活動拠点を構え、アート活動を行っています。南区ではアートを地域資源と捉え、地域に根差したアートの取組を通じ地域に笑顔と活気をもたらす「南区=アートのまち」プロジェクトを掲げ南区ゆかりのアーティストと共に様々な事業を行っています。この取組には、デザイン関係の学部や学科のある区内2つの大学(札幌市立大学・東海大学)の学生を中心に多くの区民がボランティアとして関わっています。

「南区芸術祭」について

アートのまち南区では、区制50周年を記念し2022年(令和4年)9月3日から9月25日まで「南区芸術祭2022 ミンナミニイク ミナミナク」を開催いたしました。

23日間にわたる期間中、真駒内会場・石山緑地会場の2会場にて、南区ゆかりのアーティストによるアート作品展示やワークショップ、音楽イベントやクラフトマーケットなど様々なプログラムを実施し、共催企画も合わせて1万人以上の市民にお楽しみいただきました。また、区内の多くのアーティストや文化芸術施設が芸術祭に呼応し、それぞれのアトリエや施設にて連携企画を実施するなど、節目の年を地域みんなで祝うイベントとなりました。



開会式前夜にエドウィン・ダン記念館で行われたアーティスト交流会

南区芸術祭2022 開催概要

名 称	区制50周年記念 南区芸術祭2022
サブタイトル	ミンナミニイク ミナミナク ※アイヌ語で「笑顔の(ミナミナ)私(ク)」の意味
会 期	2022年9月3日(土)~9月25日(日)
会 場	真駒内会場(地下鉄真駒内駅外壁、Coミドリ、札幌市立大まこまないキャンパス、エドウィン・ダン記念館、STUDIO kamokamo)、石山緑地会場
ディレクターチーム	國松 明日香(総合ディレクター) 細川 清映(真駒内会場ディレクター) 吉村 卓也(石山緑地会場ディレクター)
メインビジュアル デ ザ イ ン	ゆうき こうじ 結城 幸司
参加アーティスト	あいかわ あさい けんいち いわさき ひろまさ いわもと よしのり・ゆき おきの みつひろ かわの りえ きくざわ よしのり 相川 みつぐ、浅井 憲一、岩崎 弘昌、岩本 裕規・由希、沖野 光宏、河野 理恵、菊澤 好紀、 こすけがわ ひろやす こばやし かな さが はるひこ さくらいただし さっぽろかんがく うえの がく かわもと さき こやなぎ 小助川 裕康、小林 佳奈、嵯峨 治彦、櫻井 匠、札幌管楽ソリストン(上野 岳、川本 咲、小柳 ともゆき しみず ちえこ すずき はじめ なんば ようすけ にしむら あきひろ はきわら せいや はたけだ さくら ふくい はるか 友雄紀、清水 千恵子、鈴木 初、難波 陽介、西村 彰紘、萩原 靖弥、畠田 咲藍、福井 遙香、 みかみ まきこ みづの まいこ スタジオ カモカモ いが まこと えびさわ かなこ 三上 麻希子、水野 麻衣子)、シオリーヌ、すぎたまり、STUDIO kamokamo(伊賀 信、蛇澤 允子、 おおが ちひろ かとの かもした げん かもした ようこ こばやし ゆい たかやま れき むらた よしひこ もり 大賀 千尋、上遠野 いこひ、鴨下 玄、鴨下 容子、小林 優衣、高山 曜、村田 佳彦、森 つくし)、 たかがき みか たるいし れいこ つちだ ゆうき とみた みほ ナオミ ひらおか けんいち ふかわ ふくもと しょうじ 高垣 美加、樽石 麗子、土田 祐生、富田 美穂、NAOMI、平岡 健一、府川 えりざ、福本 昌二、 ふじくら つばさ ふじわら かずや おいかわ ひとし ふじさわ やよい やまぐち たいじゅ やまだ りょう 藤倉 翼、藤原 千也、モケレンベンベ・プロジェクト(及川 均、藤沢 弥生)、山口 大樹、山田 良、 ゆうき こうじ よこすか れいこ 結城 幸司、横須賀 令子 (50音順)
主 催	「南区=アートのまち」プロジェクト実行委員会／札幌市南区
共 催	公益社団法人札幌市子ども会育成連合会、STUDIO kamokamo、いしやまキャンドルプロジェクト
協 賛	IKEUCHI GROUP、株式会社双葉工業社、北海道電力ネットワーク株式会社、横浜植木株式会社、 株式会社じょうてつ、アイケン工業株式会社
協 力	札幌市立大学、札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館、北海道新聞社出版センター



真駒内会場

真駒内会場では、各アーティストが展示場所の雰囲気を活かしたアート作品の常設展示を行い、また、作品展示だけでなく、子供向け音楽ダンスイベントや演劇、ワークショップなどを行い、たくさんの笑顔が見られた。

作品展示 (作家・作品名・写真はP18)

地下鉄真駒内駅外壁

開催期間:9月3日(土)~10月25日(火)

エドワイン・ダン記念館 (南区真駒内泉町1丁目6)

開催期間:9月3日(土)~9月25日(日)

来場者数:1,192名

イベント

オープニングセレモニー 野外テラスマニコンサート

開催日: 9月3日(土)

来場者数: 約300名

出 演: 岩崎 弘昌、櫻井 匡、高垣 美加

実施場所: エドワイン・ダン記念館(テラス・公園)

踊ろう!楽しもう!ツバメダンスとコンサート

開催日: 9月18日(日)

参加者数: 約70名

出 演: 櫻井 匡、高垣 美加

実施場所: Coミドリ アート遊び場(旧体育館)

演劇『スプーン泥棒』

開催日: 9月19日(月・祝)

参加者数: 38名

原 作: 結城 幸司

出 演: モケレンベンベ・プロジェクト

実施場所: Coミドリ リンゴの部屋/アート遊び場(旧体育館)



石山緑地会場

國松総合ディレクターが「彫刻家集団CINQ」の一員として造成に関わった石山緑地では、
ワークショップやクラフトマーケット、音楽・舞蹈イベントのほか、南区の特色の一つである
農園・果樹園のPRを目的としたキッチンカーや野菜販売などを行い、多くの人で賑わった。
サンク

9月3日(土)

来場者数:3,963名

ワークショップ・工芸体験

出店者: 河野 理恵(軟石アクセサリー)、シオリーヌ(バルーンアート)、すぎたまり(羊毛フェルト)、
府川 えりざ(キャンドル)

いしやまキャンドルナイト (いしやまキャンドルプロジェクト共催企画)

石山地区の誇りである[札幌軟石]と[石山緑地]の魅力を発信するために、そして石山地区の活性化のために、石山緑地の象徴ともいえる[ネガティブマウンド]にキャンドルを灯した。

キッチンカー

出店者: artkiwa(ファラフェルサンド)、torinosu gelato(ジェラート)、北海道ベビーカステラ本舗
まる福堂(ベビーカステラ)、MOIWA531COFFEE(自家焙煎珈琲など)

農産物販売

出店者: 吉川農園(とうきび、カラーピーマン、じゃがいもなど)、クラークヒルズ(にんにく、枝豆など)、豊滝林農園(カラフルミニトマト、ナス、カラフルパプリカなど)、松井農場(長ネギ、ミニトマト、枝付き枝豆など)

音楽・舞蹈イベント

出演者: 沖野 光宏(ギター、歌)、菊澤 好紀(ダンス)、小林 佳奈(ヴァイオリン)、嵯峨 治彦(馬頭琴、喉歌)、札幌管楽ゾリストン(管楽器)、高垣 美加(ピアノ)、樽石 麗子(民族笛)、土田祐生(パーカッション)、NAOMI(歌)、平岡 健一(キーボード、シンセサイザー)、福本 昌二(トンコリ)、結城 幸司(ストーリーテリング)

クラフトマーケット

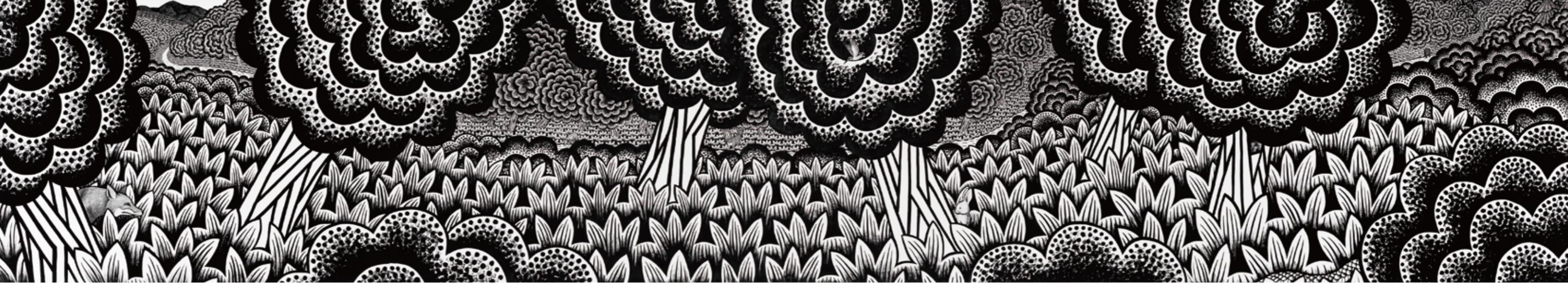
出店者: 金属工房ニコクラフト(金工)、キトカイ(木工)、すぎたまり(羊毛フェルト)、府川 えりざ(キャンドル)、横須賀 令子(墨絵アニメーション)

キッチンカー

出店者: artkiwa(ファラフェルサンド)、torinosu gelato(ジェラート)、PIE CAPPED(チーズフォンデュ)、MOIWA531COFFEE(自家焙煎珈琲など)

農産物販売

出店者: 吉川農園(とうきび、カラーピーマン、じゃがいもなど)、クラークヒルズ(にんにく、枝豆など)、細貝農園(なす、ピーマン、大根など)、松井農場(長ネギ、ミニトマト、枝付き枝豆など)



PICK UP

真駒内会場 真駒内駅外壁

真駒内駅の壁画 UNBEATEN - 川のある景色『真駒内川』 相川 みつぐ

真駒内駅に絵描の相川みつぐさんの壁画(プリント・約13.2m)が設置された。南区芸術祭に訪れたお客様をお出迎えすべくシンボリックな作品が2022年9月3日～10月25日まで真駒内駅に展示された。

モチーフは真駒内川、森、動物たちだ。真駒内駅のガラス窓部分にも作品が描かれ、数日間かけ公開制作をした。実際に相川さんがガラス窓に作品を描き、相川さんの指導のもとボランティアスタッフも華やかに作品を描いた。公開制作中には真駒内駅を利用されるお客様が制作の様子を楽しんだり、通りすがりの学生さん達がインスタ映えスポットのようにこぞって作品と一緒に写真を撮っていた。お客様と相川さん、ボランティアスタッフが会話したりと和気藹々とした雰囲気の中作品を完成させ、和やかに芸術祭の始まりを感じさせていた。



設置された作品について、以下作家からのコメントを載せる。

【作品タイトル】

UNBEATEN - 川のある景色『真駒内川』

※UNBEATEN:踏みならされ(てい)ない

【作品のコンセプト】

いま《あなた》が立っているこの街。きれいに整備され、都会的であるこの場所。ほんの数百年ほど前に時間を巻き戻してみます。緑が深く、草木が生い茂り、広大な大地がつづく中、《静かな森》が、確かに《ここに》あったはず。今ほど開発されてなかった時代の北海道をイメージして描いています。南区は自然の森が多く残る場所である一方、生活しやすい利便性も持ち合わせています。豊かな自然と都会的な要素がMIXされている、魅力的なエリア(街)です。

【川は昔も今も変わらずに流れている。】

その変わらないであり続ける川のまわりでは、時代と共に忙しく《変化》が繰り広げられている。少しづつ森が切り開かれ、治水工事が行われ道ができる、橋がかかり、家が建ち、商業施設や公共施設ができ、公園ができる、色々つくられ、色々壊された。当たり前に生活しているこの場所は人工物など何も無く、ただただ森だけが広がっていた事をこの絵を見て感じて想像していただけると幸いです。自然だけの森の世界には、必要なものだけがあって、不要なものが少ない世界だったのでないでしょうか。私たちは発展する時代の中、《本当に大切な必要なもの》がなんなのかを見失っているのかもしれません。

相川さんはフィールドワークで真駒内川の源流にある万計沼に実際に行っている。この作品を描くとき、開拓者がどんな気持ちだったのだろうか、北海道の自然の中で暮らす人々のこと、初めて人間を見た動物の気持ち、森を切り開く作業の大変さ、などを想像して描いている。

相川さんが「真駒内川を描くとき川を大きく描くのではなく、森を描いて川を見せようと思った」と話されていたのが印象的だった。

相川さんは、川が高低差のある丘を流れる場所や平坦に感じる穏やかな傾斜の場所、下流に藻岩山が見え、上流は空沼岳のある万計沼へ続く森、この風景をパノラマで描いた。真駒内駅のガラス窓には万計沼が描かれ、これは原画にはない部分だった。

相川さんの作品は長期間、芸術祭に来られたお客様をはじめ、真駒内駅を利用されるお客様を楽しませた。真駒内駅の駅員さんより展示期間を延長してもらえないか、と申し出があったほど真駒内に馴染んだ作品になっていた。

相川さんの原画は芸術祭期間中はまこまる会場に展示され、原画には真駒内駅壁画の作品にはいなかった動物が追加されていた。真駒内駅壁画とまこまる会場の原画の両方を見られたお客様はより深く作品を楽しめたことだろう。

現在、真駒内駅に設置されていた壁画作品は南区役所1階南側に移設されている。ぜひこちらも引き続き皆さんに楽しんで頂けたらと思う。(細川清映)



あいかわ
相川 みつぐ

絵描。1976年生まれ / 札幌市在住。北海道造形デザイン専門学校卒業。2008年より活動をスタート。得意のフリーハンドで描く[線]から生まれる作品はハードなものから繊細なものまで、タッチを自在に使い分け製作している。白老にある飛生アートコミュニティ主催の『飛生芸術祭』のビジュアルを担当するほか、作家活動、店舗などの壁画製作・イベントポスター・CDジャケット・キャラクター製作・商業CM・イラスト等、幅広く活躍中。

やってみよう 結城幸司による展示、ワークショップそして演劇

まこまる会場(旧真駒内緑小学校)の一教室では、版画・木彫家/創作ユーカラの結城幸司さんによる展示が行われた。結城さんは教室を見たとき「作りこまない自然のままがなんかいいな、椅子もこのまま使いたい」とぽつりとつぶやいていた。

結城さんは会期が近づくにつれ毎日のように教室に通い制作と展示を全て自ら行った。私を含め関係者は日々増えていく結城さんの作品にワクワクしながら時々教室をのぞきに通った。木版画作品が額装されないまま、ランダムに壁に展示され、結城さんの作る世界観が教室の雰囲気にもとても似合っていて、可愛らしい空間を作り上げた。

教室では結城さんのアニメーション作品「七五郎沢の狐」も壁面に映し出された。結城さんはこのアニメーション作品の原案と木版画を担当されている。下記にアニメーション作品について概要を記載する。

北海道函館市七五郎沢に作られた廃棄物最終処分場の問題を、野性の狐の目線で描いた短編アニメーション。アイヌ神謡(カムイユカラ)の手法に倣い、全編アイヌ語で語られる。環境汚染により住処を失う野生動物に、アイヌ民族の歩んできた歴史的背景を重ね合わせた。函館東山に位置する七五郎沢で代々暮らしてきた狐たち。ところが、人間たちが沢に医療廃棄物を捨てるようになり、居場所を失ってしまう。

アイヌ語で語られた内容は日本語と英語で翻訳されていた。南区芸術祭で「七五郎沢の狐」を上映できたことをとても嬉しく思う。このアニメーションを見終えると、失われる自然や豊かさを得ることは何かを失うことと表裏一体であることを再認識させられる。



段ボールで大きな動物をつくろう/演劇「スプーン泥棒」



結城さんのワークショップ『段ボールで大きな動物を作ろう!』が9月19日に開催された。ワークショップでは子供たちがとても楽しそうに段ボールで好きな動物を作っていた。クジラのような大きな動物も段ボールで作り、色を塗って仕上げ、同日午後の演劇「スプーン泥棒」(結城さん原作)で使われた。大きなクジラはみんなの力で体育館に運ばれた。

演劇では普段穏やかな様子の「モケレンベンベ・プロジェクト」さんお二人が、お芝居を始めるとともに通るいい声でコミカルな動きをし、一気に会場を魅了した。アイヌの着物を着た結城さんが登場すると、そこに立っているだけで絵になった。この三人のお芝居はとてもほっこりするものだった。

最後に結城さんの言葉を記載して結びとする。(細川清映)

すごく複雑に すごくシンプルに
すごく遅しく すごく弱々しく
グラグラのズシンズシンと生きる音が聞こえれば良いなあ、
それがアイヌであろうと、ファンタジーであろうと、
感じて貰えるまんま、南区から生まれてゆくモノ
見たい世界があるうちは、作ってゆきたい
名もなき 語り部でありたい



ゆうき こうじ
結城 幸司

釧路市生まれ。2006年から南区・石山に在住し、版画や木彫を中心して現代アートの制作活動を行う。東京で約10年間のサラリーマン生活を経て、ネイティブアメリカンの本に出会ったことをきっかけに、アイヌ活動家だった父・結城庄司の本を読むようになり、創作活動を始める。「アイヌアートプロジェクト」の代表を務め、音楽活動も行っている。





PICK UP

連携企画 石山緑地会場

みんなでつくる

よろこびわまりなし 柴田 智之

石山緑地のネガティブマウンドの北側に、スパイラルスプリングというエリアがある。夏には文字通りらせん形の塔から流れ落ちた水が、渦を巻いた水路を通って泉となる。芸術祭の期間、9月3日の石山キャンドルナイトの日と最終日の同25日に、その渦巻き水路の中心にカラフルな鯉のオブジェが設置された。その名は「よろこびわまりなし」。

制作したのは南区在住のアーティスト柴田智之さんだ。

「区制50周年、お祝いしたい、めでたい。じゃあ、鯉にしよう」と思いついた。この企画は柴田さんの手弁当と一般からの募金で実行した連携企画だ。

鯉の胴体は針がねで作り、中にLED電球を仕込んだ。顔は断熱ボードで作り、枝に色をつけて貼り付けたりした。制作には南区藤野にある「障がいのある人もない人も、赤ちゃんからお年寄りまで誰もが参加できる場所」として運営されている「むくどりホーム」に集う人たち

が手伝った。柴田さんは介護福祉士、児童指導員としての経験もあり、ボーダレスに、どんな人も作品に関わるようとの願いから芸術祭に参加した。

両日は完成した鯉をリヤカーに乗せて会場まで運んだ。ウロコは色とりどりのセロファンで、それぞれに願いごとが書かれている。5つの福祉施設に呼びかけ、願いごとを募った。会場で来場者にその場で書いて貼りつけてもらったものもあり、貼る場所がなくなるほど人が参加した。鯉の周りでは、サックスや和太鼓のパフォーマンスもあり、一緒に踊り出す人も多数。まさに、よろこびわまりなし。(吉村卓也)



柴田 智之

「アトリエ柴田山」主催。2000年より芸術活動を開始。俳優、アーティスト、介護福祉士、児童指導員として、南区の森の中に自宅兼アトリエを構え、福祉と創作の兼業で生活。ひとつの役割や表現方法に捕われない活動を展開し続けている。

緑地のボレロ 石山緑地で最終日 南区芸術祭フィナーレ

芸術祭の最終日となった9月25日日曜日。石山緑地でのフィナーレでいちばん心配されたのは天気だった。当初は、緑地の景観が損なわれるため、テントを設置する計画は無く「雨天中止」の案も出たが、直射日光が楽器に与えるダメージを考えると晴雨に問わらずテントは必要との結論になり、終日ステージにテントを設置することになった。なるべく無粋でないテントを探したが、デザイン性の高いものはすでに出払っており、借りることができなかった。いずれにせよテントが設置されることになったことで、小雨決行の予定で当日を迎えた。当日、幸いにも天気は良好。風もなく雨の心配は皆無だった。最高気温は23.4度、最低気温は14.9度だった。

午後から、連続して行われた音楽家たちのステージが一段落した。この日の札幌の日没は午後5時28分。辺りが薄暗くなるのに合わせて、篝火に火がつけられた。ネガティブマウンドの窪んだ部分には、スウェーデントーチ(木のブロックに切り込みを入れたいまつのようなもの)が数個置かれ、こちらにも同時に火がつけられた。

すっかり暗くなり、雨や日光の心配もなくなり、テントは取り除かれた。

当日出演した音楽家たちの何人かがステージ横に陣取り、譜面台を照らすライトに、楽器を手にした人たちの姿がうっすらと浮かび上がった。静かなスネアドラムが刻むリズムで始まったのは、ラヴェルのボレロだ。ネガティブマウンドには、ダンサーの菊澤好紀さんが上半身裸の姿でうずくまっている。菊澤さんは、南区在住のダンサーで、コンテンポラリー、ノンジャンルの舞踏家だ。世界各地の自然の中でも踊ってきた経験がある。

ネガティブマウンドの真ん中辺りに、軟石の小さなアーチがある。菊澤さんによれば、マウンドの窪んだ部分で抑圧された負の感情を表現し、ボレロの進行と共にステージに向かって進み、アーチをくぐったあたりで負から正のポジティブな感情を表現したそうだ。

ボレロは進行に従って演奏者が増えて音楽の厚みを増し、最後のフィナーレに至る。出演者に合わせて楽譜を作成したのは、札幌管楽ゾリストだ。何人かの演奏者は暗闇の中からフラッシュモブのような形で徐々に演奏に加わり、スポットライトに照らされた菊澤さんの巨大な影が軟石の壁面にも舞った。すべての演者が加わり、曲はクライマックスに。菊澤さんの最後の掛け声と共に、ボレロが終わった。鳴り止まぬ拍手。予想外の観客の反応に、ゾリストのまとめ役、西村彰紘さんの機転でボレロを70小節目からアンコール。さらなる拍手と、幻想的な緑地でのパフォーマンスにため息が漏れる。

こうして南区芸術祭は幕を閉じた。(吉村卓也)



きくざわ よしのり
菊澤 好紀

南区在住。ブラジルの舞踏と格闘技「カポエイラ」に触発されてダンスを始める。大工として仕事をしながら、ダンスパフォーマンスも行う自称「踊る大工」。ストリートダンスや舞踏などの様々なテクニック、インスピレーション、記憶を身体表現する。2022年、常盤に「ソーラ・アートリトリート」をオープンし、森の癒しや自然療法、ワークショップなどにも取り組む。



真駒内会場の作家・作品名一覧

地下鉄真駒内駅外壁 南区真駒内17番地



相川 みつぐ UNBEATEN - 川のある景色『真駒内川』（原画はCoミドリに展示）

Coミドリ (旧真駒内緑小学校) / 南区真駒内幸町2丁目2-2 まこまる



ミッドナイトサーカス
浅井 憲一



太陽のふね / Mother's Boat
藤原 千也



えかし
結城 幸司



カウパレード・ニセコ/レゴ牛
IKEUCHI GROUP

札幌市立大まこまないキャンパス

(旧真駒内緑小学校) / 南区真駒内幸町2丁目2-2 まこまる



This is a pen.
小助川 裕康



ネオンサイン/NEON-SIGN
藤倉 翼



黒板の森
山田 良

STUDIO kamokamo

南区真駒内幸町1丁目1-15



身につける造形展

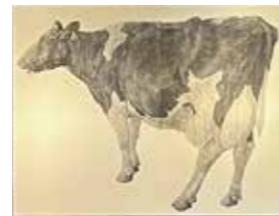
エドウィン・ダン記念館 南区真駒内泉町1丁目6



春かける
小助川 裕康



Kick Back
小助川 裕康



904全身図
富田 美穂



カウパレード・ニセコ / mojamoja
株式会社双葉工業社

南区芸術祭2022 連携企画一覧

※50音順、参加作家敬称略

- ① あしたのげいもり [イベント]
日時 9/24(土) 主催: 札幌芸術の森
場所 札幌芸術の森野外ステージ/野外美術館(南区芸術の森2丁目75)
夜の森の静寂の中、スピーカーではなく各自の携帯ラジオのイヤホンから音を聞きながら映画や音楽を楽しむ「世界一静かなフェスティバル」。2022年は「五感を研ぎ澄ます」をテーマに開催した。
- ② 有島武郎旧邸朗読会 [イベント]
日時 9/18(日) 主催: 札幌芸術の森
場所 札幌芸術の森 有島武郎旧邸(南区芸術の森2丁目75)
2022年は、晩年の有島武郎が所有する農場地を小作人に譲渡した農地解放100年にあたることから、ニセコ有島記念館との協力の下、有島旧邸前庭にて朗読会を実施した。語り手は、俳優(無名塾)であり、彫刻家・本郷新の孫である本郷弦。
- ③ エドウィン・ダンと真駒内牧牛場 [作品展示]
日時 7/16(土)-9/11(日) 主催: 札幌芸術の森
場所 札幌芸術の森美術館(南区芸術の森2丁目75)
明治期の真駒内牧牛場の歴史、今日の北海道につながるエドウィン・ダンの功績を紹介する展示を実施。北海道畜産の礎が真駒内にあることを多くの人に知りたいこととなった。
- ④ 共催企画展(交差する多様性) [作品展示]
日時 9/3(土)-9/25(日) 主催: gallery 麒麟の森/吉兆窯
場所 南区真駒内柏丘4丁目2-26
芸術祭期間中、陶芸・造形・美術など幅広く活動する坂田真理子が自宅ギャラリーを開設し、砂川市にアトリエを持つ浮浪工房(ガラス細工・陶芸)の内海眞治との二人展を実施した。(ペルソナの微笑み/坂田真理子・ガーデニングは楽しい/内海眞司)
- ⑤ 札幌市立大学・藤木淳 新作披露展2022 [作品展示]
日時 9/5(月)-10/14(金) 主催: 札幌市立大学デザイン学部(要確認)
場所 札幌市立大学デザイン学部芸術の森キャンパス(南区芸術の森1丁目)
札幌市立大学デザイン学部の藤木淳教授による非接触型インタラクティブアート作品(新作)を展示した。
- ⑥ 第6回札幌市南区文化団体協議会FESTIVAL [作品展示・舞台]
日時 10/15(土)-10/16(日) 主催: 札幌市南区文化団体協議会
場所 南区民センター(南区真駒内幸町2丁目2-1)
3年ぶりとなる美と舞の競演。川柳、美術、編み物、華道、書道の＜展示＞と、バレエ、日舞、ヴァイオリン、ヒップホップ、邦楽、ギター、空手の＜舞台＞に、南区在住の文化人が参加した。
- ⑦ たきのアートDay [イベント・作品展示]
日時 7/31(日)-8/21(日) 主催: 国営滝野すずらん丘陵公園
場所 国営滝野すずらん丘陵公園カントリーハウス周辺(南区滝野247)
夏休み期間中、「動物」をテーマにアートを楽しんでもらうイベントを開催。来園者が高校生と一緒に壁画にペイントできる参加型イベントやクラフト制作、地元アーティストによる壁画の制作や作品展示も実施した。
- ⑧ 月夜の空想ミュージアム～森の番人からの手紙～ [イベント]
日時 7/22(金)-11/3(木・祝) 主催: 札幌芸術の森
場所 札幌芸術の森野外美術館(南区芸術の森2丁目75)
大人気野外美術館謎解きイベントを2年ぶりに開催。来場者は、四季折々の変化を見せる自然の中で、74点の彫刻たちの豊かな表情を感じながら、期間限定の特別な空想ミュージアムの世界を楽しんだ。
- ⑨ 北海道青少年会館50周年 Compass祭2022 [イベント]
日時 10/1(土) 主催: 北海道青少年会館Compass
場所 北海道青少年会館Compass敷地内(南区真駒内柏丘7丁目8-1)
1972年の開館から50周年を記念してイベントを開催。子どもたちによる子どもたちのための体験祭をテーマに、野外ステージ、アウトドア体験、ブルー遊園地、フード会場、自衛隊・警察車両展示など盛りだくさんの内容を実施した。
- ⑩ 南区ART STUDIO TOUR 2022 [作品展示]
日時 9/3(土)-9/25(日) 主催: 南にモンパルナス
場所 各作家のアトリエ
石山地区で活動する作家集団「南にモンパルナス」メンバーの制作現場をサテライト会場と見立てて、各作家企画・運営による作品展示やワークショップ、アトリエ見学会を実施。参加作家は浅井憲一〔鉄彫刻〕、岩本裕規・由希〔ニコクラフト〕〔金工・七宝〕、上杉高雅〔ガラス〕、神尾優佳〔陶芸〕、小林大賀〔映像〕、柴田智之〔福士とアート〕、長谷川史織〔グラフィックデザイン〕、山口大樹〔キトカイ〕〔木工〕※五十音順
- ⑪ 南にモンパルナス [作品展示]
日時 7/19(火)-7/24(日) 主催: 南にモンパルナス
場所 さいとうギャラリーB室(中央区南1条西3丁目1ラ・ガレリア5階)
⑩と同じく「南にモンパルナス」メンバー9名による熱くパワフルなグループ展。
- ⑫ 目覚めよ!ヴァイオリン・オーボエ・ [イベント]
ピアノによるコンサート
日時 9/19(月・祝) 主催: NPO法人奏楽
場所 札幌市時計台ホール(中央区北1条西2丁目)
「いつでも、どこでも、音楽を!」をモットーに道内外各地での演奏活動や音楽を通じての社会貢献活動を行うアンサンブルグループ奏楽(そら)がコンサートを開催。メンバーは岩崎弘昌(オーボエ)、小林佳奈(ヴァイオリン)、前田朋子(ピアノ)
- ⑬ UNION Music Village in 芸術の森 [イベント]
日時 7/2(土) 主催: UNION FIELD
場所 札幌芸術の森 野外ステージ/アリーナ/アトリエ(南区芸術の森2丁目75)
札幌のライブシーンで活躍するアーティストを中心に、札幌芸術の森にてライブを開催。コロナ禍で思うように活動が出来なかったアーティストが、生の音楽を待ちにしていたファンへ熱い思いを届けた。
- ⑭ よろこびきわまりなし [イベント]
日時 9/3(土) 主催: Atelier柴田山
場所 石山緑地(南区石山78)
アートと福祉の融合を目指す柴田智之が、縁起物である鯛の胴体に「○○しタイ」といった人々の様々な願いが描かれたうろこを貼り付けたオブジェを制作。P.14、15参照。
- ⑮ よろこびきわまりなし/祝辞 [作品展示]
日時 9/25(日) 主催: Atelier柴田山
場所 石山緑地(南区石山78)
⑭の鯛の周りでお祭り衣装に扮した柴田智之が50周年を祝う前口上を行うとともに、和太鼓(中田裕子)、サックス(鳥一匹)に合わせて演じ踊った。P.14、15参照。

※各イベントの詳細は、下記URLまたはQRコードから
<https://sapporo-minami-artfes.jp/collaborative-planning/>





南区の野菜販売

芸術祭期間中は収穫の季節。南区の農家からの野菜販売ブースが設けられた。この年は天気もよくどこも豊作模様。ピーマン、ジャガイモ、トマト、ナス、ニンニク……。さまざまな野菜が並んだ。

よろこびきわまりなし

連携企画として行われたアーティスト柴田智之さんのプロジェクト。スパイラルスプリングの真ん中に置かれたのは、区制50周年のめでたい「鯛」のオブジェ、《よろこびきわまりなし》。ウロコにはみんなの願い事が貼り付けられた。

キッチンカー

南区を販売エリアとするキッチンカーたちが勢ぞろい。自家焙煎コーヒー や サンドイッチ、ジェラート、ベビーカステラなど。両日とも天気に恵まれ、行列ができる時間帯もあった。

ワークショップ・クラフトマーケット

地域で活躍するクラフト作家さんたちが屋外ブースを構え、9月3日にワークショップ、25日にクラフトマーケットを行った。ワークショップでは札幌軟石の小物、バルーンアート、羊毛フェルト、キャンドルの制作体験、クラフトマーケットでは金工、木工、羊毛フェルト、キャンドル、墨絵アニメーション作家の作品販売が行われ、多くの人が賑わった。

石山緑地の広場エリアのひとつが「スパイラルスプリング」だ。真ん中にある渦巻き（スパイラル）は、水が流れる泉（スプリング）になっていて、気持ちのよい芝生エリアにはいろいろなオブジェが点在する。9月3日と25日の2日間、各種販売やクラフトマーケット、連携企画などのイベントが行われ、賑わった。



イベントの発信も



新たな南区の
魅力を知りました



作品の準備や搬入も
活動の一部



作品への想いや裏話を
たくさん知りました



来場者の方ともたくさん
お話ししました



芸術祭の発信について
などを議論しました



作業しながら
コミュニケーション

芸術祭を陰で支えた ボランティアのみなさん



真駒内駅や商店街で
チラシ配布し発信も



高校生から社会人まで
59名が参加しました



活動日は事前事後
込みで32日間



貴重な機会だったという
感想が多く聞かれました



くさの たけし
草野 竹史さん

NPO法人 ezorock

本芸術祭では、延べ178人が
ボランティアスタッフとして活動しました。
國松実行委員長の芸術祭にかける想い、作家や来場者の
皆さんとのお話から活動の熱量が高まっていたように感じます。
この活動が、今後も多くの方が南区のまちづくりに参加する
きっかけになればと思います。
関係者のみなさま、ありがとうございました。



南区役所を起点に
活動を展開しました



暑い日も雨の日も外で
活動しました



こんな間近に作品が！

会場をご提供、ご協力いただいた施設のみなさん



そのけ ひろこ
園家 廣子さん エド温・ダン記念館

当館に展示された芸術作品全てが、ダンと深い繋がりを持って見事に呼応し合い、相互に存在を高めたこと、また、見学者も含め、芸術祭に関わった全ての人たちとの素晴らしい交流の場になったことが、感動深く思い出されます。



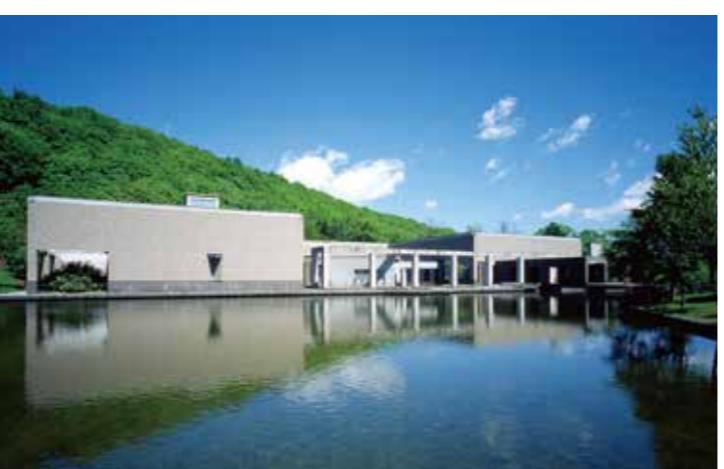
なかお みな
中尾 美奈さん 子どもの体験活動の場 Coミドリ

芸術祭期間、Coミドリにたくさんの子どもたちと保護者の方に来館して頂けたこと、嬉しく思います。遊びの中で芸術を感じられる体験は、素晴らしい時間でした。多くの方々と関わることができたことに感謝致します。



はらだ たかゆき
原田 隆幸さん 地下鉄真駒内駅

地下鉄真駒内駅正面に大きなアートが描かれ、たくさんのお客様に見ていただきました。窓ガラスに描かれたアートは、小さな子供たちが直接触れるなど、笑顔あふれる取り組みになったと感じています。真駒内駅に素敵なアートを作っていただき、ありがとうございました。



札幌芸術の森美術館

「南区=アートのまち」プロジェクト 実行委員会

実行委員長



くにまつ あすか
國松 明日香

彫刻家・星槎道都大学客員教授

札幌駅前通りや札幌ドームなど、札幌市内の公共施設に多くの作品が展示されている。北海道を代表する彫刻家。

主な受賞歴

- 1973年 第1回C.C.A.C.ワールドプリントコンペティションにて最優秀賞受賞 (サンフランシスコ)
- 1987年 イメージ・響—北海道の美術'87にてグランプリ受賞 (北海道立近代美術館)
- 1989年 はまなす国体シンボルモニュメント「捷」にて第4回本郷新賞受賞
- 1993年 札幌市民文化奨励賞受賞
- 2003年 あいの里教育大駅前の彫刻「MUSE」にて「日本の鉄道ーパブリックアート大賞」優秀賞受賞
- 2008年 北海道文化奨励賞受賞
- 2009年 紺綬褒章受章
- 2016年 札幌芸術賞受賞

実行委員 (五十音順)



おばら めぐみ
小原 恵

札幌軟石を扱う「軟石や」
代表

札幌軟石でアロマストーンなどの
雑貨を制作。



さかもと まい
坂本 真惟

札幌芸術の森美術館
学芸員



しばき のりこ
芝木 謙子

(公財)パシフィック・
ミュージック・
フェスティバル組織委員会



すのうち もとひろ
須之内 元洋

札幌市立大学
デザイン学部講師
生活を豊かにするメディア・
アーツについて、研究・デザイン・
プロジェクトを実践している。



はやかわ わたる
早川 渉

東海大学札幌キャンパス
国際文化学部講師・映像制作
1999年カンヌ映画祭に正式出品。
各国の国際映画祭で受賞歴があり、
国内外の高い評価を得ている。



よしむら たくや
吉村 順也

株式会社メディアグレス代表
元ぼすとかん再生プロジェクト代表
編集者、フォトグラファー、ビデオ
グラファー、ライター、ドキュメンタリー
映像作品も制作。南区を舞台に
いろいろな地域活動も行う。

副委員長 奥村 俊文
札幌市南区市民部長

実行委員 島谷 尚
札幌市南区市民部長

実行委員会事務局 清田 幸宏、高橋 江里子、熊谷 沙弥香、内藤 拓也、角 彩花、坂下 太基
(札幌市南区地域振興課)

区制50周年記念

南区芸術祭

「南区=アートのまち」プロジェクト

実施報告書

発行日 令和5(2023)年2月28日

発行者 札幌市南区地域振興課

編集 「南区=アートのまち」プロジェクト実行委員会

連絡先 札幌市南区市民部地域振興課
〒005-8612 札幌市南区真駒内幸町2丁目2-1 TEL. 011-582-4723

デザイン 株式会社ガーランド



MINAMIKU MINANAFU